

令和5（2023）年度（数学）教育指導計画

（1）科目の配当・分担表

（必修 ◎，選択必修 ○，選択 △）（講師：*）

学 年	科 目 名	必修・選択	単位数	クラス数	時数	担当者名
I	数学I	◎	2	4	8	打海 孝輔
I	数学A	◎	2	4	8	深澤 義成
II	数学II	◎	3	4	12	山本 修平
II	数学B	◎	1	4	4	大石 明德
III	数学III(甲)	△	4	2	8	武部 真子
III	数学III(乙)	△	2	2	4	深澤 義成
III	数学B	◎	1	4	4	大石 明德
III	数学演習A	△	2	1	2	打海 孝輔
III	数学演習B	△	2	2	4	武部 真子

(2) 指導計画表

科目名：数学 I	学年：第 I 学年	単位数：2	担当者名：打海 孝輔
<p>1. 指導目標</p> <ul style="list-style-type: none">・諸定義を理解することができる。・定義をもとに性質・公式・定理を導出することができる。・性質・公式・定理を使って簡単な問題を解くことができる。・複雑な問題を筋道立てて考え、解くことができる。・数学を体系的に考えることができる。・自分の考えを式や言葉を用いて口頭・記述ともに正確に相手に伝えることができる。 <p>・与えられた問題を解くだけでなく、自ら問題を探究し、解決する力を養う。</p> <p>2. 評価観点</p> <p>定期考査の素点 小テスト 提出課題 振り返り</p> <p>3. 指導方法</p> <p>講義形式の授業と演習・グループワーク・解説</p> <p>4. 評価方法</p> <p>【知識・技能】 単元テスト、定期考査</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査、単元テスト</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 提出課題、振り返り、授業への取り組み</p>	<p>5. 年間計画</p> <p>〈1 学期〉</p> <p>1 章 数と式</p> <p>1 節 式の計算</p> <p>2 節 実数</p> <p>3 節 1 次不等式</p> <p>2 章 集合と論証</p> <p>1 節 集合</p> <p>2 節 命題と論証</p> <p>3 章 2 次関数</p> <p>1 節 関数とグラフ</p> <p>〈2 学期〉</p> <p>2 節 2 次方程式・2 次不等式</p> <p>4 章 図形と計量</p> <p>1 節 鋭角の三角比</p> <p>2 節 三角比の拡張</p> <p>3 節 三角形への応用</p> <p>〈3 学期〉</p> <p>上記の内容を含む総合問題の演習を行う。</p>		
<p>使用教科書： 東京書籍「数学 I Advanced」 副教材・テキスト等 4 STEP「数学 I」 数研出版(問題集) LEGEND 数学 I +A 東京書籍(参考書)</p>			

科目名：数学A	学年：第I学年	単位数：2	深澤 義成
<p>1. 指導目標</p> <p>(0) 公式や定理を鵜呑みにせず、なぜそういえるのか、それは本当に正しいといえるのか、と自分が数学的に納得するまで疑問を持ち続けられる。</p> <p>(1) 諸概念の定義を理解できる。その定義が表す図形的な意味があるものについては、その意味も理解できる。</p> <p>(2) 定義に基づいて性質、公式、定理などを導出できる。</p> <p>(3) 導出した性質、公式、定理などを用いて計算したり、方程式・不等式を解いたり、グラフをかいたりできる。</p> <p>(4) (3) を行う中で、規則性や法則性がありそうなものについて、文字による一般化を行いその規則性を証明できる。</p> <p>(5) 問題を考える際にはその背後にある性質や構造に着目し、本質が同じである別の問題に気づける。</p> <p>(6) 意識的に別解を考え、1つの問題を代数的に捉えたり、幾何的に捉えたり、様々な観点から迫ることができる。</p> <p>(7) 数直線、平面、空間と次元を変えたときに公式や定理がどう変わるのか、代数的な表現にどう影響するのかを考えることができる。</p> <p>(8) 数学では抽象的だった式や文字に、物理的あるいは化学的な対象を表す意味が生じたときに、その数式が物理的あるいは化学的に何を言っていることになるのかを述べることができる。</p> <p>(9) 身のまわりにある現象を数式で表現したり数学的に捉えたりして、その現象の原因や振る舞いを理解できる。</p> <p>(10) 1時間、2時間考えてもわからない問題でも休憩して明日以降考えるなど、あきらめずに粘り強く考えることができる。</p>		<p>2. 評価観点</p> <p>(1) 考査：基本的な問題を6割程度、発展的な問題を4割程度出題。</p> <p>(2) 授業内加点テスト：普段の授業内で実施。授業で扱った問題の設定を少し変えて出題。見たことない状況であってもその場で考えることができるかをみる。</p> <p>(3) 希望者加点テスト：授業以外の時間（昼休み・放課後・夏休み等）に希望者のみで実施。主体的に取り組む姿勢をみる。</p> <p>(4) 数学的間違いの指摘 考査に上記(2)、(3)、(4)を加点。考査40点未満の場合は、基礎テストを合格する（基本問題60点満点で40以上）まで受ける。</p> <p>3. 指導方法 プリントに従って進める。成績のつけ方、授業プリント、加点テストと考査：問題と解答例、加点テストの実施案内、その他連絡等はクラスルームで配信する。</p> <p>4. 評価方法 【知識・技能】 定義を理解し、基本的な定理・公式が身についているかを上記2.(1)の基本問題を中心に評価する。 【思考・判断・表現】 場面に適した定理・公式が使えるか、視点を変えて問題を捉えられるか、図形や事象を数式で表現できるかを上記2.(1)の発展問題と(2)を中心に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 興味・関心をもって意欲的に数学に取り組む態度を上記2.(3)、(4)を中心に評価する。</p>	
<p>使用教科書：数学A Advanced（東京書籍） 使用問題集：4STEP 数学A（数研出版） 使用参考書：NEWACTION LEGEND 数I+A（東京書籍）</p>		<p>5. 年間計画 場合の数、確率、整数、図形と進める。範囲が終われば他分野も含めて総合的に扱う。</p> <p>予定は今後の状況により変更する可能性がある。</p>	

科目名：数学Ⅱ	学年：第Ⅱ学年	単位数：3	担当者名：山本 修平
<p>1. 指導目標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> <p>2. 評価観点</p> <p>定期考査、確認テスト、課題提出、授業態度などを総合的に判断する。また、数学的・論理的な考え方ができているか、それを表現しようとしているか、表現できているか。</p> <p>3. 指導方法</p> <p>講義形式、問題演習、グループワークなど。</p>		<p>4. 年間計画</p> <p>< 1 学期 ></p> <p>1. 方程式・式と証明 整式の乗法・除法と分数式 2次方程式 高次方程式 式と証明</p> <p>2. 図形と方程式 点と直線 円 軌跡と領域</p> <p>< 2 学期 ></p> <p>3. 三角関数 三角関数 加法定理</p> <p>4. 指数関数 指数関数 対数関数</p> <p>< 3 学期 ></p> <p>5. 微分と積分 微分係数と導関数 導関数の応用 積分</p> <p>5. 評価方法</p> <p>【知識・技能】 定期考査や確認テスト(毎時間実施)で判断する</p> <p>【思考・判断・表現】 課題提出、確認テスト、提出物などの内容によって判断する</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業に取り組む姿勢、課題の提出状況、グループワークへの姿勢などから総合的に判断する</p>	
<p>使用教科書：</p> <p>数学Ⅱ Advanced (東京書籍)</p> <p>副教材・テキスト等：</p> <p>4 STEP 数学Ⅱ (数研出版)</p> <p>NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B (東京書籍)</p>			

科目名：数学B	学年：第Ⅱ学年	単位数：2	担当者名：大石 明德
<p>1. 指導目標</p> <p>(0) 公式や定理を鵜呑みにせず、なぜそういえるのか、それは本当に正しいといえるのか、と自分が数学的に納得するまで疑問を持ち続けられる。</p> <p>(1) 諸概念の定義を理解できる。その定義が表す図形的な意味があるものについては、その意味も理解できる。</p> <p>(2) 定義に基づいて性質、公式、定理などを導出できる。</p> <p>(3) 導出した性質、公式、定理などを用いて計算したり、方程式・不等式を解いたり、グラフをかいたりできる。</p> <p>(4) (3) を行う中で、規則性や法則性がありそうなものについて、文字による一般化を行いその規則性を証明できる。</p> <p>(5) 問題を考える際にはその背後にある性質や構造に着目し、本質が同じである別の問題に気づける。</p> <p>(6) 意識的に別解を考え、1つの問題を代数的に捉えたり、幾何的に捉えたり、様々な観点から迫ることができる。</p> <p>(7) 数学では抽象的だった式や文字に、物理的あるいは化学的な対象を表す意味が生じたときに、その数式が物理的あるいは化学的に何を言っていることになるのかを述べることができる。</p> <p>(8) 身のまわりにある現象を数式で表現したり数学的に捉えたりして、その現象の原因や振る舞いを理解できる。</p> <p>(9) 1時間、2時間考えてもわからない問題でも休憩して明日以降考えるなど、あきらめずに粘り強く考えることができる。</p>		<p>2. 評価観点</p> <p>考查：基本的な問題を6割程度、発展的な問題を4割程度出題。</p> <p>類題作成：授業で扱った問題の類題と解答例を作成（希望者のみ）。</p> <p>問題解説：授業で扱う問題を黒板・PDF等を使って解説（希望者のみ）。</p> <p>(4) 加点テスト等：発展的な話題を中心に不定期で出題。希望者のみの加点テストも実施予定。</p> <p>(5) 数学的間違いの指摘</p> <p>考查に上記(2)、(3)、(4)、(5)を加点。</p> <p>考查40点未満のものは、基礎テストを合格する（基本問題60点満点で40点以上）まで受ける。</p> <p>3. 指導方法</p> <p>講義形式が基本（生徒による解説も含む）。クラスルームのPDFに従って進める。</p> <p>4. 評価方法</p> <p>【知識・技能】 定義を理解し、基本的な定理・公式が身についているかを上記2. (1)、(4)を中心に評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】 場面に適した定理・公式が使えるか、視点を変えて問題を捉えられるか、図形や事象を数式で表現できるかを上記2. (1)、(2)、(4)を中心に評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 興味・関心をもって意欲的に数学に取り組む態度を上記2. (2)、(3)、(4)、(5)を中心に評価する。</p> <p>5. 年間計画</p> <p>1学期に数列、2学期にベクトル、3学期に統計的推測を扱う。</p> <p>予定は今後の状況により変更する可能性がある。</p>	
<p>使用教科書：数学B（東京書籍）</p> <p>使用問題集：4step 数学B（数研出版）</p> <p>使用参考書：NEWACTION LEGEND 数Ⅱ+B（東京書籍）</p>			

科目名：数学Ⅲ（甲）	学年：第Ⅲ学年	単位数：4	担当者名：武部 真子
<p>1. 指導目標</p> <p>(1) 基本的な概念、基礎的な知識を身につける。</p> <p>(2) 数学的活動を通して、極限・微分法及び積分法の考え方に関心をもつとともに、様々な事象に対して数学的な考え方を意欲的に活用する力を育てる。</p> <p>(3) 事象を数学的・論理的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につける。</p> <p>(4) 身の回りの事象などに積極的に数学を活用しようとしたり、事象について粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断したりしようとする。</p> <p>(5) 2年までの既習事項をたくさん活用しながら粘り強く考察する力を育てる。</p> <p>(6) 自分の解答を数学的に正しくかつ論理的に他者に説明する力、また、他者の解答を数学的に正しくかつ論理的に説明ができているかを判断する力、を身につける。</p> <p>2. 評価観点</p> <p>定期考査、確認テスト、課題提出、授業態度、発表などを総合的に判断する。また、数学的・論理的な考え方ができているか、それを表現しようとしているか、表現できているか。</p> <p>3. 指導方法</p> <p>講義形式、問題演習、ペアワーク、グループワークなど。</p>		<p>4. 評価方法</p> <p>【知識・技能】 定期考査や確認テストで判断する</p> <p>【思考・判断・表現】 課題、確認テスト、提出物などの内容によって判断する</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業に取り組む姿勢、課題の提出状況、グループワークへの姿勢、発表の様子などから総合的に判断する</p> <p>5. 年間計画</p> <p>以下の順に進める。どの学期にも融合問題を扱う時間をつくる。</p> <p>< 1 学期 ></p> <p>1. 関数 数列の極限 関数の極限</p> <p>2. 微分法 いろいろな関数の導関数</p> <p>< 2 学期 ></p> <p>3. 接線、関数の増減 微分のいろいろな応用</p> <p>4. 不定積分 定積分 面積・体積・長さ</p> <p>< 3 学期 ></p> <p>5. 入試を見据えた総合演習</p>	
<p>使用教科書：</p> <p>数学Ⅲ Advanced（東京書籍）</p> <p>副教材・テキスト等：</p> <p>4 STEP 数学Ⅲ（数研出版）</p> <p>NEW ACTION LEGEND 数学Ⅲ（東京書籍）</p>			

科目名：数学Ⅲ（乙）	学年：第Ⅲ学年	単位数：2	担当者名：深澤 義成
<p>1. 指導目標</p> <p>（0）公式や定理を鵜呑みにせず、なぜそういえるのか、それは本当に正しいといえるのか、と自分が数学的に納得するまで疑問を持ち続けられる。</p> <p>（1）諸概念の定義を理解できる。その定義が表す図形的な意味があるものについては、その意味も理解できる。</p> <p>（2）定義に基づいて性質、公式、定理などを導出できる。</p> <p>（3）導出した性質、公式、定理などを用いて計算したり、方程式・不等式を解いたり、グラフをかいたりできる。</p> <p>（4）（3）を行う中で、規則性や法則性がありそうなものについて、文字による一般化を行いその規則性を証明できる。</p> <p>（5）問題を考える際にはその背後にある性質や構造に着目し、本質が同じである別の問題に気づける。</p> <p>（6）意識的に別解を考え、1つの問題を代数的に捉えたり、幾何的に捉えたり、様々な観点から迫ることができる。</p> <p>（7）数直線、平面、空間と次元を変えたときに公式や定理がどう変わるのか、代数的な表現にどう影響するのかを考えることができる。</p> <p>（8）数学では抽象的だった式や文字に、物理的あるいは化学的な対象を表す意味が生じたときに、その数式が物理的あるいは化学的に何を言っていることになるのかを述べるができる。</p> <p>（9）身のまわりにある現象を数式で表現したり数学的に捉えたりして、その現象の原因や振る舞いを理解できる。</p> <p>（10）1時間、2時間考えてもわからない問題でも休憩して明日以降考えるなど、あきらめずに粘り強く考えることができる。</p>		<p>2. 評価観点</p> <p>（1）考查：基本的な問題を6割程度、発展的な問題を4割程度出題。</p> <p>（2）授業内加点テスト：普段の授業内で実施。授業で扱った問題の設定を少し変えて出題。見たことない状況であってもその場で考えることができるかをみる。</p> <p>（3）希望者加点テスト：授業以外の時間（昼休み・放課後・夏休み等）に希望者のみで実施。主体的に取り組む姿勢をみる。</p> <p>（4）数学的間違いの指摘 考查に上記（2）、（3）、（4）を加点。考查40点未満の場合は、基礎テストを合格する（基本問題60点満点で40以上）まで受ける。</p> <p>3. 指導方法 プリントに従って進める。成績のつけ方、授業プリント、加点テストと考查：問題と解答例、加点テストの実施案内、その他連絡等はクラスルームで配信する。</p> <p>4. 評価方法 【知識・技能】 定義を理解し、基本的な定理・公式が身についているかを上記2.（1）の基本問題を中心に評価する。 【思考・判断・表現】 場面に適した定理・公式が使えるか、視点を変えて問題を捉えられるか、図形や事象を数式で表現できるかを上記2.（1）の発展問題と（2）を中心に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 興味・関心をもって意欲的に数学に取り組む態度を上記2.（3）、（4）を中心に評価する。</p>	
<p>使用教科書：数学Ⅲ（東京書籍）</p> <p>使用問題集：4step 数学Ⅲ（数研出版）</p> <p>使用参考書：NEWACTION LEGEND 数学Ⅲ（東京書籍）</p>		<p>5. 年間計画 複素平面、2次曲線、極座標と進める。範囲が終われば数Ⅲ甲の微積分野も含めて総合的に扱う。</p> <p>予定は今後の状況により変更する可能性がある。</p>	

科目名：数学B	学年：第Ⅲ学年	単位数：1	担当者名：大石 明德
<p>1. 指導目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習を通じて数学ⅠAⅡBの復習をする。 ・共通テスト対策として、要点の確認や解き方を練習し、問題の誘導を読み取り、最後まで解けるようにする。 ・根気よく取り組む力と集中力を養う。 <p>2. 評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題提出 ・出席状況 ・授業態度 <p>3. 指導方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけたくさんの問題を演習させ、その解説やポイント指導を行う。 <p>4. 評価の方法</p> <p>【知識・技能】 定期考査・授業時課題で評価を行う。</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査・授業時課題で評価を行う。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業への取り組み方・授業時課題の成果で行う。</p>		<p>5. 年間計画</p> <p>< 1 学期 ></p> <p>数学ⅡB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式の計算、二項定理 ・恒等式、不等式 ・複素数とその 2 次方程式の理論 ・因数定理、高次方程式 ・点・直線・円 ・曲線と直線 ・軌跡と領域 ・三角関数 ・指数・対数関数 ・導関数と接線 ・関数の値の変化 ・微分法の応用 ・不定積分・定積分 ・面積 ・ベクトル ・ベクトルと平面図形 ・ベクトルと空間図形 ・等差・等比数列 ・種々の数列 ・漸化式、数列の応用 <p>< 2 学期 ></p> <p>数学ⅠA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式の計算 ・1 次不等式 ・集合と命題 ・2 次関数、最大・最小 ・2 次方程式と 2 次不等式 ・2 次関数の種々の問題 ・三角比と図形 ・図形の計量 ・データの代表値と散らばり ・データの相関 ・場合の数 ・組合せ ・確率 ・図形の性質 ・整数の性質 	
<p>使用教科書</p> <p>なし</p> <p>副教材・テキスト等</p> <p>最新版[大学入試共通テスト試験対策] ニュースタンダード 数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B受験編（数研出版）</p>		<p>< 3 学期 ></p> <p>総合演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト対策演習 	

科目名：数学演習 A	学年：第Ⅲ学年	単位数：2	担当者名：打海 孝輔
<p>1. 指導目標</p> <p>(0) 公式や定理を鵜呑みにせず、なぜそういえるのか、それは本当に正しいといえるのか、と自分が数学的に納得するまで疑問を持ち続けられる。</p> <p>(1) 諸概念の定義を理解できる。その定義が表す図形的な意味があるものについては、その意味も理解できる。</p> <p>(2) 定義に基づいて性質、公式、定理などを導出できる。</p> <p>(3) 導出した性質、公式、定理などを用いて計算したり、方程式・不等式を解いたり、グラフをかいたりできる。</p> <p>(4) (3) を行う中で、規則性や法則性がありそうなものについて、文字による一般化を行いその規則性を証明できる。</p> <p>(5) 問題を考える際にはその背後にある性質や構造に着目し、本質が同じである別の問題に気づける。</p> <p>(6) 意識的に別解を考え、1つの問題を代数的に捉えたり、幾何的に捉えたり、様々な観点から迫ることができる。</p> <p>(7) 数直線、平面、空間と次元を変えたときに公式や定理がどう変わるのか、代数的な表現にどう影響するのかを考えることができる。</p> <p>(8) 数学では抽象的だった式や文字に、物理的あるいは化学的な対象を表す意味が生じたときに、その数式が物理的あるいは化学的に何を言っていることになるのかを述べることができる。</p> <p>(9) 身のまわりにある現象を数式で表現したり数学的に捉えたりして、その現象の原因や振る舞いを理解できる。</p> <p>(10) 1時間、2時間考えてもわからない問題でも休憩して明日以降考えるなど、あきらめずに粘り強く考えることができる。</p>		<p>2. 評価観点</p> <p>(1) 考查：基本的な問題6割程度、発展的な問題を4割程度出題。</p> <p>(2) 単元テストを各授業で行い、その出来に振り返りを加えて、評価する。</p> <p>(3) 良問紹介解説：自分で見つけてきた、解法が興味深い問題を他の生徒に紹介し、解説する。その問題の難易度ではなく、解法の興味深さを他の生徒が評価し、その点数を加点する。(希望者のみ)。 考查に上記(2)、(3)を加点する。</p> <p>3. 指導方法 演習形式が基本(生徒による解説も含む)。クラスルームのPDFに従って進める。</p> <p>4. 評価方法 【知識・技能】 定義を理解し、基本的な定理・公式が身についているかを上記2.(1)、(2)を中心に評価する。 【思考・判断・表現】 場面に適した定理・公式が使えるか、視点を変えて問題を捉えられるか、図形や事象を数式で表現できるかを上記2.(1)、(2)、(3)を中心に評価する。 【主体的に学習に取り組む態度】 興味・関心をもって意欲的に数学に取り組む態度を上記2.(2)、(3)を中心に評価する。</p> <p>5. 年間計画 数ⅠAⅡBの総合演習を行う。数Ⅲの内容を含む場合もある。 予定は今後の状況により変更する可能性がある。</p>	
<p>使用問題集：2023スタンダード数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B受験編(数研出版)</p>			

科目名：数学演習 B	学年：第Ⅲ学年	単位数：2	担当者名：武部 真子
<p>1. 指導目標</p> <p>(1) 基本的な概念、基礎的な知識を身につける。</p> <p>(2) 事象を数学的・論理的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につける。</p> <p>(3) 2年次までの既習事項をたくさん活用しながら粘り強く考察する力を育てる。特に、解答が合っているかどうかではなく、なぜそのような操作を行うのか・なぜそのような解答が求まるのかを明確にすることを重視する。</p> <p>(4) それぞれの生徒の解法をクラス全体で共有することで、1つの問題を多角的にみる力を身につける。</p> <p>(5) 紙の上において自分で解くだけでなく、どのように順序立てるかなどを熟考し、全体に向けて論理的に説明する力を身につける。</p> <p>(6) 他者の発表を聞いて、数学的に正しいか・論理的に説明ができているかを判断する力を身につける。</p> <p>2. 評価観点</p> <p>定期考査、確認テスト、課題提出、発表、授業態度などを総合的に判断する。また、数学的・論理的な考え方ができているか、それを表現しようとしているか、表現できているか。</p> <p>3. 指導方法</p> <p>講義形式、問題演習、グループワーク、発表など。</p>		<p>4. 評価方法</p> <p>【知識・技能】 定期考査や確認テストで判断する</p> <p>【思考・判断・表現】 課題、確認テスト、提出物、発表などの内容によって判断する</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業に取り組む姿勢、課題の提出状況、グループワークへの姿勢、発表の様子などから総合的に判断する</p> <p>5. 年間計画</p> <p>< 1・2 学期 ></p> <p>以下の 12 種の単元について I A II B の範囲内で総合演習を行う。番号順に取り組むのではなく、年間で様々な単元に取り組み、融合問題も扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数と式 2. 関数と方程式 3. 式と証明，論理 4. 整数の性質 5. 場合数と確率 6. 図形の性質 7. 図形と式 8. 三角・指数・対数関数 9. 微分法・積分法 10. ベクトル 11. 数列 12. データの分析 <p>< 3 学期 ></p> <p>入試を見据えた総合演習</p>	
<p>使用教科書：</p> <p>2023 スタンダード数学演習 I II A B (数研出版)</p>			